

診療所研修の1か月

住友病院 総合診療科

高嶋 万莉

2011年12月に5か所の診療所で地域医療の研修をさせて頂きました。昨年度まで住友病院は保健所あるいは住友関連の企業診療所での研修が中心でしたが、今年度より全て地域の診療所での研修という形式に変更となりました。この度、新しく始まった診療所研修の1か月間を振り返り、その中で感じたことを寄稿致します。

まず良かった点として、本来の目的と思われる診療所での医療を直に見ることができたことです。私は歯科や皮膚科に通院したことはありましたが、自分にとって町の診療所はインフルエンザの予防接種を受けに行く所といった認識でした。今回の研修で、診療所の役割や、先生方の診療姿勢や、考え方についてもお話を頂き、視野を広げることができました。

どの診療所でも患者は主治医を心から信頼しており、困った時に頼りにされていました。診療所での診察だけでなく、通院の難しい患者さんのお住まいへの往診にも同行させて頂きました。失明の末、うつ病を患い、部屋の中がゴミ屋敷のようになってしまった独居老人は、病状の浮き沈みはあるものの、ホームヘルパー

の介入で住まいは整理され、往診に訪れた主治医と談笑できるまでに回復してありました。また高齢者だけでなく、CHARGE連合という先天異常を抱える1歳の乳児にも出会いました。誤嚥性肺炎になると呼吸器をつけなければならず、入院を繰り返す生活のようですが、少しでも自宅で一緒に過ごしたいという希望から往診医の診察を頼りにされていました。往診では、診療所以上に家族背景や各々の事情を考慮する必要がある、また患者さんが毎日をいかに過ごしやすいかをするかをホームヘルパーの方やご家族とともに先生は悩んでおられました。一般に医師はspecialistとgeneralistとに分けられますが、診療所の先生はgeneralistとして健康管理をするだけでなく、精神的な支えとなるhome doctorとしても非常に大切な役割を果たされていることを再認識致しました。診療所としては当然ですが、多様な生活スタイルの人々がいて、また色々な問題を抱えた人々がいる臨床現場に触れたことが私にとってはとても良い経験でした。

また正直いって、日々の研修では業務や知識の整理などで忙しくて、医療制度のことなどを考える余裕はありません。しかし、往診での経験や社会保険診療報酬支払基金の見学など、病院での研修では後回しにしていた問題に触れる機会も得ることが出来ました。医療に関わる制度や課題を知る機会を与えて頂けて感謝しております。

最後になりましたが、私たちの研修を受け入れて下さった診療

所の皆様にはお世話になり、心から感謝致しております。有難う
ございました。